

国際単位系接頭辞 と 2進接頭辞

接頭辞（せつとうじ）とは、

単語や数値、識別子などの先頭に付加され、その意味を補ったり、特定の属性や範囲を示したりする要素です。

一般的には接頭語とも呼ばれます。

IT分野、特にコンピュータネットワークの世界では「プレフィックス (prefix)」という呼称で登場し、極めて重要な役割を担っています。システムエンジニアにとって、この接頭辞の概念を正しく理解することは、インフラ設計を行う上での基礎になります。本来の国際単位系の接頭辞は10の累乗を表すため、2の累乗を表すものではなく誤解や不都合を生むことがあり、2006年に国際単位系に新たに2進接頭辞が設けられました。

これによって、今までの表記との対応は、下表のようになっています。

お店で「1テビバイトのハードディスクください！」って言ったら、店員さんにキョトンとされそうですね(^_^; 近い将来には、変わるかも・・・20年経っても変わってないけどね。笑笑

国際単位系接頭辞		2進接頭辞	
単位	数字	単位	数字
キロ(k)	10^3	キビ(Ki)	2^{10}
メガ(M)	10^6	メビ(Mi)	2^{20}
ギガ(G)	10^9	ギビ(Gi)	2^{30}
テラ(T)	10^{12}	テビ(Ti)	2^{40}
ペタ(P)	10^{15}	ペビ(Pi)	2^{50}
エクサ(E)	10^{18}	エビ(Ei)	2^{60}
ゼタ(Z)	10^{21}	ゼビ(Zi)	2^{70}
ヨタ(Y)	10^{24}	ヨビ(Yi)	2^{10}